

## 2011年度 事業計画

### 《11年度の方針》

公益財団法人に移行し組織の足場は固まった。がん予防の観点から検診の受診拡大に向け引き続き努力する。各種のセミナーや情報発信の拡充で普及啓発を進め、協会発行の乳がんクーポン券を増やすことで受診しやすい環境を整える。患者ケアではがん無料相談について国の委託費がなくなるが、その重要性を鑑み自力で維持する。

また社会のニーズに合わせ、優れたがん研究への支援や、専門医、専門家の育成にも積極的に取り組む。全がんを視野に新たながん検診のあり方を探るためのシンポも計画している。

これら事業拡大には寄付増大が不可欠だが、寄付の新制度の活用や企業との連携事業の一層の強化などで前年予算に9千万円の上積みを図った。この5年間で倍増の勢いだ。

### 公1事業 がん知識・がん予防の普及啓発活動

#### 【ピンクリボンフェスティバル事業】

ピンクリボンの知名度は上がり乳がんの早期発見の重要性は浸透したが、検診受診率は思うほどには伸びていない。10年度にフェスティバル事業の事務局を朝日新聞社から対がん協会へ移管し、「知識の普及」から「検診受診」へと軸足を移しつつある。

11年度はその動きをさらに強める。10年度にトライアルとして会場で協会オリジナルの検診無料クーポン券を配布し好評だった。その後のクーポン追跡調査では3割程度が受診すると予想できる。枚数を増やし1万7千枚を発行して受診率向上に努める。

また、ピンクリボンのさらなる拡大を図るため、開催地を増やすこと、開催地の地元協力企業を拡大することにも注力する。10月に東京、神戸、仙台で開催するが、これらに加え名古屋での開催も検討している。名古屋市の協力が不可欠だが、市長選挙も終了し本格的な交渉に入る。朝日新聞名古屋本社、メ〜テレなどの協力は決定している。

また神戸会場では神戸新聞社との共同主催を交渉中で、先方は神戸の街のライトアップ主導など前向きな姿勢を見せており、調整が済み次第覚書を交わし、協力して協賛企業募集や広報活動にあたる。

新しい手法としては話題の「東京スカイツリー」をライトアップする計画がある。まだ完成前であるが、話題を呼びそうな企画でありスカイツリー側は興味を示している。

#### 【リレー・フォー・ライフ事業】

11年度は室蘭、川越、芦屋、福岡、大分など連続して開催している実行委員会が早々と決定しているほか、新規として函館、弘前、愛知・稲沢、熊本、宮崎、京都などが名乗りを上げている。昨年度から10か所程度増え、合せて30か所程度になる見込み。

開催地が増えればすべての会場を十分にケアすることが難しくなる。そこで全国を7地域に分けこれまでのベテラン経験者にそれぞれきめ細かくカバーしてもらい、協会事

務局の不足を補う。

対がん協会への寄付金は10年度で前年倍増の2,800万円。ただ平均寄付率は40%程度に過ぎず、まだ経費をかけ過ぎる開催地がある。米国では基準寄付率が80%~85%になっており、経費をかけずに実施し寄付を増やす方策を各地実行委員会と協議する。

寄付金はこれまで検診受診率向上、専門医育成、電話相談などに充ててきたが、実行委員会からがん治療、医薬品の研究にも目を向けたいという希望が強く出された。これについては「プロジェクト未来」と名付け、助成の方法などを研究する。

専門医育成については10年度に新たな事業として、米国MDアンダーソンがんセンターへの1年間の派遣を実施し、岡山大学の大学院生を4月から送り込む。11年度は複数を送ることにしたい。

### 【その他のキャンペーン】

#### ① ほほえみ基金の活動

「乳がんをなくす ほほえみ基金」は年を追うごとに認知度、注目率を高めており、11年度の寄付は1億2千万円を目指すことになる。この基金をもとにシンポジウム、相談会、無料クーポン券の発行を行い、乳がん検診受診率の向上を図る。

協会独自に乳がん検診クーポン券を発行し支部で検診受診してもらおう。母の日の花のプレゼントとともに送ったり、誕生日のプレゼントとしたり、送る側のメッセージカードを添えるなどして、検診への後押しとなる工夫を凝らす。支部への配布枚数を昨年平均20枚から200枚まで増やし、合計では1万7千枚を発行する。これで全国で実施する体制が取れ、支部には未受診者の開拓に励んでもらう。

また10月のピンクリボンフェスティバルの一環として、東京、神戸、名古屋（予定）で「乳がん征圧のためのシンポジウム」を朝日新聞社とともに共催する。

新たな企画として協会のほほえみ大使であるアグネス・チャンを起用し、乳がん検診の受診勧奨ポスターを作成する。

生命保険会社を対象に乳がんのミニセミナーを通年で開催しているが、これに子宮頸がん啓発の内容も含める。

このほか公3事業の患者相談、ネットワークングセミナー、患者美容セミナーなどにもほほえみ基金を活用する。

#### ② 子宮頸がん基金の活動

まず、啓発活動に注力する。接種率・検診受診率の向上には正しい情報提供が欠かせない。09年に始めた市民公開講座を11年度も2回開催を計画（札幌、名古屋等を予定）しているほか、中学生、高校生、そして大学生への啓発を積極的に展開する。10年度は、市民公開講座を機に、首都圏で活動する女子大学生と、講座を開催した地域の学生との交流を図った。この女子大生たちを支援するのも、若者への啓発活動を拡充させるためだ。

ワクチンに関しては、接種者の登録・フォローアップを拡充させる。10年度に接種を始めた2支部（千葉・北海道）には協力を求めて登録に着手してもらった。11年度には、接種を検討している他の支部にもこの登録に参加してもらおうとともに、興味を示してくれた

医師にも呼びかけ、登録の輪を広げる。

子宮頸がん検診で、HPV への感染の有無を調べる HPV テストの臨床研究事業も 10 年度に引き続き実施する。10 年度は 5 支部が参加したが、うち 1 つが 2011 年度は参加せずに、「事業」として行うことを決めている。5 支部以外にも関心を示すところも少なくなく、子宮頸がん検診の普及のためにも多くの支部の参加を呼び掛けたい。

### ③ がん教育基金の活動

子どもにも理解しやすい DVD 教材を開発し中学生を中心に配布するとともに、希望する学校にドクターが訪れ授業することを目的とする。徐々に理解され始めたが、今年大きく飛躍させねばならない。

知名度を高めるために、「医療」「教育」に重点を置く朝日新聞社と連携し、紙面企画を共同で推進する。

3 月には第一弾としてお茶の水附属高校の 3 学期特別授業として、中川恵一准教授（東大病院）に授業をしてもらう。その内容を朝日新聞紙上で再録しこの基金の存在を全国に知らせ寄付を募る。紙面企画のタイトルは人気編集企画「オーサービジット」の医療版で「ドクタービジット」を予定し、年間 3～4 回程度のシリーズ展開を考えている。広告スペースには協賛広告主を募り寄付してもらうことも計画している。

### ④ 禁煙基金の活動

禁煙基金の再構築のため、朝日小学生新聞社と共催で「親子で考える禁煙教室」を開催する。紙面とイベントの 2 本立て。また禁煙補助剤メーカーとタイアップし、年間を通してシンポ展開やポスター制作を検討している。

禁煙コンテストも継続して年間 2 回は開催する。昨年 10 月のたばこ料金大幅値上げの影響で企業単位での参加者が増えている。

### ⑤ がん征圧月間事業

日本医師会と共催で 9 月を「がん征圧月間」と定め、厚生労働省、文部科学省、47 都道府県、19 政令指定都市、日本癌学会、日本癌治療学会などの後援を得て全国的に啓発活動を集中して展開する。

中心行事の「がん征圧全国大会」は鹿児島市で 9 月 1 日、2 日に開催する。今年は公益財団法人となって初めての大会であり、今後の協会の活動方針を明らかに示す会議としたい。

### ⑥ 世界の対がん組織と連携した国際活動

世界の対がん運動と途上国へのがん対策支援を主導する国際対がん連合（UICC）の活動や国際キャンペーンに積極的に協力する。国際対がん連合（UICC）が定めた「世界対がんデー」の 2 月 4 日に、UICC 日本委員会とともに、シンポジウムなどの啓発・広報イベントを開催する。日本での「世界対がんデー」イベントは 09 年から毎年開催、10 年度は、公開シンポジウム「がんは予防できる—世界と日本」（札幌市の札幌医科大学講堂）を実施、11 年度も関西での開催を予定。

アメリカ対がん協会（ACS）をはじめ、世界の対がん運動団体とも連携し、国際交流

を強化する。

### 【啓発セミナー】

#### ①全国巡回がんセミナー

4月18日に新潟、6月7日に高知、9月2日に鹿児島、来年2月に青森の4会場で実施を予定する。9月の鹿児島については、巡回がんセミナーというより、全国大会に合わせた、キャンサーウィークの決起大会となるようなセミナーを計画中。

#### ②胃がん検診セミナーほか

現在はバリウムによるX線検診が推奨されているが、バリウムの誤嚥や回転時の骨折などの副作用、読影医の減少など検討すべき課題も多い。これに加え内視鏡検査やペプシノーゲン検査などの可能性も含め、胃がん検診の将来を探る公開シンポジウムを開催する。

また5がんそれぞれの検診方法について、現状と課題を探る講演会も開催したい。

### 【情報発信】

#### ①AC キャンペーン

10年度は仁科亜季子さん母娘を起用し乳がん、子宮頸がん検診を呼びかけたが、11年度は対象を広げ5がん全体の検診受診を呼びかける。

ACの調査では対がん協会の広告展開に対する接触状況と評価が支援団体の中でもっとも高い。認知率は69.4%、評価は68.5%で、行動喚起率は30.4%という結果が出ている。実に3人に1人が広告を見て何らかの行動を起こしたということで、ACからも期待されている。

#### ②広報体制

日本対がん協会の機関紙である「対がん協会報」の充実をはかる。トピックスを増やして、寄付者に対して協会活動が判るように改め、寄付するための環境を整える。

またリレー・フォー・ライフのホームページを新しくして、参加希望者が使いやすい形に改善する。

## 公2事業 専門家・専門団体向けの支援事業

### 【がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業】

国の都道府県がん対策推進事業として、都道府県に新たに地域統括相談支援センターが設置される。協会は、がん患者またはその家族の方が行うピアサポーターなど、がんに関する相談員となる方に対し、がんに関する様々な分野に対する相談事業に必要なスキルを身につけるための研修プログラムの策定を行う。厚労省の新規委託事業としてスタートさせる。初年度は、プログラムを検討・策定し、それをテーマとしたシンポジウムを開催する。

### 【助成】

## ①奨学医制度の拡充

がんに取り組む若手医師が半年ないし 1 年間にわたり専門性が高い医療機関で研修し、その医師に協会が奨学金を出す制度を引き続き実施する。受入れる研修機関はこれまでの 6 カ所に加えて九州大学病院、東北大学病院の 2 カ所に依頼し、専門家育成の幅を広げる。

これまでとは異なり、応募時点で所属する組織での研修は対象とせず、それ以外の病院、大学での研修を原則とすることにした。

## ②地域ボランティア組織を支援

在宅治療が増える時代に合わせて 09 年度にモデル事業として始めた支援事業は 10 年度は高知、福島、東京で助成した。1 年度もホームページで募集するなど多くの希望者を募っていく。

### 【研修】

マンモグラフィ講習会、乳房超音波講習会、保健師・看護師研修会、診療放射線技師研修会、大腸がん検診精度向上研修会を 1 月～3 月の間に実施する。それぞれが支部からの強い希望に応えるものだが、受講者は広く一般からも募集する。

### 【表彰】

がん征圧に顕著な功績のあった個人、団体に対して「日本対がん協会賞」、特別賞の「朝日がん大賞」を贈呈し、がん征圧全国大会の席上で表彰する。

### 【がん検診車無償貸与事業】

JKA の補助によるがん検診車の無償貸与事業について JKA 側が制度変更し、従来のような協会本部からの推薦方式は取りやめ、検診機関との直接対応となったので、この事業は廃止する。

これに伴い協会本部の所有になっていた JKA の補助による検診車 26 台（青森・岩手 2 ・宮城 2 ・山形 2 ・福島・栃木・群馬・埼玉・千葉・山梨・富山・石川・福井・愛知・三重・京都 2 ・岡山・山口・香川・愛媛・福岡・熊本）について各県支部の所有に名義変更する。

## 公 3 事業 がん患者サポート事業

### 【がん相談事業】

#### ① がん相談ホットライン

10 年 1 月の土曜日相談開始に続いて 10 月に日曜日相談を始めたことで、相談件数は平均 30% 増（前年同期比）となった。日曜日へ拡大してからは 50% 近く増えている。

より多くの相談に乗るため、リーフレットを全国のがん診療連携拠点病院、図書館、保健所などに加え、行政やクリニックにも送ることを継続し、よりきめ細かい普及をめざす。相談員 17 人態勢で、2010 年度より約 1000 件増やして 1 万件を目標に取り組む。

相談員のレベルアップをさらに進めるため、10 年秋から月 1 回以上のペースで主に

専門医を招いた勉強会を続けている。こうしたペースを崩さず、知識を増やす努力を重ねる。

## ② 医師による相談

厚生労働省の委託事業としては10年度で終了した。これまでの実績を総合すると、面談、電話とも利用頻度や反響から今後も継続することが必要だという判断から、協会独自事業として続けることにした。

この機会に、さらに効率的な運用を探り、予約状況などを分析しておおむね8割に縮小しながらもこれまでの場所、運営方法を変えずに新年度に臨む。協会としての相談の開催は東京にしぼり、面接、電話合わせ年間350回を予定している。

## ③母の日無料相談

5月の「母の日」と10月の「乳がん月間」を中心に、「専門医による乳がんの無料電話相談」を今年も実施する。

### 【患者向けセミナー】

#### ①患者のための美容セミナー

資生堂の技術協力で、がん体験者を対象にした美容に関する困りごとを解決するセミナーを資生堂仮本社（五反田）で9回開催する。プロからの情報、技術提供だけでなく体験者同士が気持ちを分かち合う場にもなっていて、引きこもりがちな患者さんへの支援をめざす。また、ほほえみ基金事業の一環としても、資生堂の協力で女性がん患者を対象にして、治療が原因で生じる美容の悩みに応えるメイクアップセミナーを8月、11月に計2回開催する。

#### ②ネットワーキングセミナー

各地の乳がん患者・啓発団体を招き活動資金の作り方、自治体などとのコミュニケーションの取り方、組織の維持などを学ぶ「ネットワーキングセミナー」を、11年度は東京開催を止め、地方で開催することで団体がより参加しやすい形をとる。また、これらの活動団体が地元で開催する乳がんイベントへの助成も行う。

## 公4事業 がん研究支援事業

### 【がん臨床研究推進事業】

06年度から受託している厚労科研費の事業。

まず、がん医療水準均てん化推進事業は、厚生労働科学研究費補助金を受けた研究者が、関連分野の専門家やがん医療従事者向けの研修会・発表会を通して研究成果を普及させ、がん医療従事者の資質や地域格差の均てん化を目指す事業。協会が事務局となり、研修会・発表会を年間約25回開催する。また、専門研究者向けに研究成果を盛り込んだ冊子を制作・配布する。

次いで研究成果等普及啓発事業は、一般の国民向けに研究成果や事業の趣旨を分かり

やすく解説する発表会を年間約 25 回開催するほか、一般向けの冊子を制作・配布し、ホームページにも掲載する。

## その他

### **【公益財団法人化に伴うコンプライアンス体制の強化】**

10 年 10 月 1 日に、「公益財団法人」へ移行したことを受けて、既存の諸規程、規則の見直し、新たな規程や内規、基準づくりなど、引き続き、新公益法人制度への移行に伴うコンプライアンス体制、ガバナンス体制を強化する。

これに関し朝日新聞社内部監査室の協力を得て、会計事務を含む業務全般、内部統制の状況について点検を行った。同室からの専門的、かつ具体的アドバイスを業務の効率化、および、規定や規則、基準づくりに反映させる。